

徳は物理的な力を包括しなければならない

「目には目を歯には歯を」とは旧約聖書の「出エジプト記」に出てくる有名な言葉です。これは人間の性として考えられてきましたが、現代では、それを文字通りに実行することが許されないことになってきました。「原爆には原爆を」ということになってしまいます。そんなことが認められないことは、今日では誰でもが分かることです。とすればそれを超えた知恵を育てなければならないということは明白です。

「気は優しくて力持ち」は誰もが認める人間の理想です。そう見せかけて人を食べ物にするという考え方が政治にはいつも付きまどってきます。その見極めが本当に難しいのです。その見極めをする方法・システムが必要です。ある人の行為が他の人を不安にさせたり、心配させたり、みじめにさせたり、怒らせたりするならば、その行為は何処かに問題があったのだ、と捉え切る感受性が必要になってきます。それは個人の能力を最大限発揮することのできるシステムでなければなりません。それは「汝の欲せざるごと、人に施すことなかれ」ということになります。

「万人の万人に対する戦い」が許された時代は終わったと考えなければなりません。地球は有限であることがはっきりしてきた現在、「産めよ 増えよ 地に充ちよ」とは現代までということになります。新しい知恵が必要と思われまます。性悪説と性善説を並行させるのではなく、性善説の優位を法律的に定めるシステム開発が必要になってきます。現実的には法律で定めても、性悪説的な行為がなくなるわけではないでしょうが、「公」が性善説を宣言する時が来たかと判断する必要があります。

物理的な力によって支配を貫徹するということは論理的に否定され、物理的な力を包含する徳の力の存在によって全く新しい世界が誕生してきます。

(2019.2.14、川島)

安心して山登りを

視覚障害者サポート講習



昨年11月「視覚障害者サポート講習会」を津山市の共同事業として開催させていただきました。

視覚障害者を含む市民の方に34人参加いただき総社の神楽尾公園で行いました。

視覚障害者と健常者がジョギングや山登りを通じて健康づくり活動をする「レインボーメイト津山」が主催するものでした。

実習では園内の遊歩道を1.2kmゆっくり歩き、サトーと役が段差や周囲の景色を説明し、楽しみなが散歩しました。

参加者の中には中学生もありました。参加された方はもちろん新聞各社の報道や津山市の広報により、視覚障害者の理解が深まったと感じています。(智和レインボーメイト代表)、

—田部井淳子さんのブログ「視覚障害者との山登り」—

目が見えないのに、山に登ってどうするの??

と素朴な疑問があると思います。

しかし、彼らにとってこのように、山に登ることが最も長時間行なえる運動の一つなんです。

登っているときに私達晴眼者がその風景を伝えることで彼らは想像します。実際にコケや岩、木々を触ることで認識も出来ます。

凄く驚いたのが耳や鼻、指先が凄く敏感なことです。

また肌で感じる空気などで感じています。

改めて登山の素晴らしさを痛感しました。

カタクリを愛でる会

3月30日(土)

